



新津高等学校

同窓会

発行 者 新潟県立新津高等学校 同窓会
新潟市秋葉区秋葉1-19-1
電話 (0250) 22-1920(代)
同窓会長 石川 幸夫
責任者 阿部印刷
印刷所 阿部印刷

御挨拶

新津高等学校同窓会
会長 石川 幸夫



三万余名の同窓生の皆様
こんにちは。皆様の日頃の
同窓会活動に對しての御理
解と御支援に心より感謝を
申し上げます。

母校は今年創立九十四周
年を迎えました。この間、日
本はおろか世界に、高校教
育を通して有為な人材を送
り続けてきました。

国を發展させる基は、様
々な定義があることでしょ
うが、私は第一に教育こそ
が国を支えてきたと信じて
おります。

豊かな日本を作ったのは、
先人の努力と世界に誇る優
れた教育であり、新津高校
はそれを貫き通してきたの
です。

母校と関係者の皆様、そ
して同窓生の皆様に深く感
謝と敬意を表します。

さて、今回は同窓会の運
営について述べさせて頂き
たいと思います。

新津高校同窓会の目的は、
同窓生の皆様と協力し母校
を応援することと同窓生の
親睦です。

今年、皆様と協力し全
教室に電子黒板とその教材
を寄贈させて頂いたり、又、
学生の海外研修、クラブ活
動の補助、教育講演会の補
助を通して学校と学生の皆

様を支援しました。又、会
員の皆様に対しては、同窓
会報発行、同窓会名簿発行
や支部活動を通して皆様の
親睦を図って参りました。

しかしながら同窓会報を
見て頂くとは分かりますが、
同窓会の収入は今回卒業し
ました卒業生の入会金一人
三〇〇〇円を頂いておる他
は、善意の自発的寄付金と
同窓生新入会員以外の会員
から頂く同窓会報協力金な
のです。

『一回入会金を払うと死
ぬまで会員となり、会報が
送られてくる会』(支部の
会費徴収は任意の支部活動
の方針で支部活動に使われ
るもので、本部収入にはな
っておりません。同窓会本
体には入会金以外の会費は
ありません。私は他校で
年会費徴収をしている状態
などを見る度に、私共の同
窓会の経営に誇りを持って
おります。

『お金は出来るだけかけ
ずに、活動は活発に、基本
的にボランティアで』これ
が私の信条です。一〇〇周
年を迎えたら、又、母校が
甲子園に出場した時にどう
するかと云う方々もおり
ますが、それはその時賛同
する方々にお願ひし実費で
活動すれば良いと思ってお
ります。小さな経営体、金
のかからぬ経営、知恵は無
限に、活動は活発で、心が
通い合う、誰もが共感出来

る組織で良いと思います。
しかしながら、同窓会報
を見て頂ければお分かりの
ように、この同窓会報発行
活動自体が赤字になってお
り、近いうちに希望者有料
配布とホームページに移行
せざるを得ないと思える程
です。
現在は乏しい会の基本財

新津高等学校近況
インターンシップについて

名誉会長(校長) 越 沢 祐 一



本校同窓会員の皆様には、
本校の教育活動をはじめ様
々なところで、ご理解ご協
力をいただきまして、誠に
感謝申し上げます。おかげ
さまで、本校は、
学習や進路また部活動等に
おきまして、ますます様々
な成果を達成しております。
今後とも一層のご支援ご協
力をお願いいたします。

今年度、目標としており
ました国公立大学合格者数
が100人を越えました。
また、今年度も部活動で北
信越大会をはじめとするブ
ロック大会や全国大会等へ
の出場を果たすことができ
ました。生徒や教職員の努
力が実りました。これも、
同窓会や地域の方々のご支
援ご協力の賜物と感謝いた
しております。本当にあり
がとうございました。

本校同窓会員の皆様には、
本校の教育活動をはじめ様
々なところで、ご理解ご協
力をいただきまして、誠に
感謝申し上げます。おかげ
さまで、本校は、
学習や進路また部活動等に
おきまして、ますます様々
な成果を達成しております。
今後とも一層のご支援ご協
力をお願いいたします。

今年度、目標としており
ました国公立大学合格者数
が100人を越えました。
また、今年度も部活動で北
信越大会をはじめとするブ
ロック大会や全国大会等へ
の出場を果たすことができ
ました。生徒や教職員の努
力が実りました。これも、
同窓会や地域の方々のご支
援ご協力の賜物と感謝いた
しております。本当にあり
がとうございました。

本校同窓会員の皆様には、
本校の教育活動をはじめ様
々なところで、ご理解ご協
力をいただきまして、誠に
感謝申し上げます。おかげ
さまで、本校は、
学習や進路また部活動等に
おきまして、ますます様々
な成果を達成しております。
今後とも一層のご支援ご協
力をお願いいたします。

産を取り崩し、赤字を補填
している程です。
何卒皆様より、この点を
御理解頂き、会報協力金の
送付をお願いするところで
あります。
尚、経済的に余裕のない
方、病氣等の方々、又、同
窓会報発行に反対の方々も
おられると思いますので、
その方々は協力金は結構で
あると思います。
皆様の御協力を重ねて心
より御願ひ申し上げます。
同窓会の皆様の御健勝と
御発展を心よりお祈りして
おります。

けるようにお願いしていま
いたいと思ひます。
さて、このインターンシ
ップですが、進学高校にど
うして導入したのかとよく
聞かれます。それは、高校
生が大学等へ進学したとし
ても、最終的には、就職し
て職業について自立するこ
とになるのですから、その
成長の一つの過程として、
高等学校では、生徒は、将
来自分がどのような職業に
就きたいかその実現のため
に今努力しております。そ
こで、学校では、授業・部活
動などや体育祭・文化祭な
どの学校行事で、生徒を成
長させるべく教育活動を行
っておりますが、その先の
自分の将来就きたい職業を
考えることは目標をはっき
りさせることであり、やり
がいを持つことにつながる
と考えております。

そのため働くことをイメ
ージできることは大切であ
ると考えています。働くこ
とが、夢や希望に満ちてい
たり、働く職場を経験する
ことができるに越したこと
はないと思ひます。そこで、
必ずしも自分の希望の職業
ではなくてもインターンシ
ップで職業を体験させたい
と考えました。昨年は、希
望者が約40人でしたが、そ
の結果は後述してのように
良好だったので、今年度は
2年生全員にインターンシ
ップを体験させました。その
アンケート結果より、生徒
は自らの将来を意欲的に考
えるようになったことが分
かりました。

このように、進路に對し
て自信を持ったこと、意欲
的になったことが分かり、
インターンシップが生徒に
将来の自分を考える意欲を
しっかりと醸成したことが分
かりました。また、なによ
りも働くことに積極的にな
ったことが驚きでした。さ
らに、昨年度は希望者の参
加によってインターンシッ
プを行いました。その時
の感想では、「地元でこのよ
うに一生懸命頑張っている
企業があるとは思わなかつ
た」、「働いている人がか
っこいいと思った」、「地
元で働きたいと思った」、「
自分ば勉強しているつも
りになつていたが、働いて
いる人の専門用語が分から
ず、勉強不足と分かった」
などがありました。生徒は、
地元をよく知らないで、そ
れでいて、地元軽視の傾向
があるようです。これは私
たちが改善していかなくて
はなりません。また、企業
について大人と異なるイメ
ージを持っているように感
じました。これも今後の指
導に活かさなくてはいいな
いと考えております。

今年度は、同窓会の皆様
の支援と協力のおかげで昨
年度のこの会報で説明しま
したように、電子黒板とい
う高価なものを全教室に整
備することができ、アメリ
カ海外研修も実現できまし
た。とても思ひがけない幸
運であつたと感謝しており
ます。新津高等学校は、同
窓会という強い味方がある
と改めて感謝した次第でご
ざいます。

以上簡単な近況報告では
ございませんが、同窓会の皆
様にはこれまで同様、新津
高等学校をご支援いただき
たいと思ひます。ど
うかよろしくお願ひいたし
ます。

このように、進路に對し
て自信を持ったこと、意欲
的になったことが分かり、
インターンシップが生徒に
将来の自分を考える意欲を
しっかりと醸成したことが分
かりました。また、なによ
りも働くことに積極的にな
ったことが驚きでした。さ
らに、昨年度は希望者の参
加によってインターンシッ
プを行いました。その時
の感想では、「地元でこのよ
うに一生懸命頑張っている
企業があるとは思わなかつ
た」、「働いている人がか
っこいいと思った」、「地
元で働きたいと思った」、「
自分ば勉強しているつも
りになつていたが、働いて
いる人の専門用語が分から
ず、勉強不足と分かった」
などがありました。生徒は、
地元をよく知らないで、そ
れでいて、地元軽視の傾向
があるようです。これは私
たちが改善していかなくて
はなりません。また、企業
について大人と異なるイメ
ージを持っているように感
じました。これも今後の指
導に活かさなくてはいいな
いと考えております。

インターンシップについて
アンケート結果
1 インターンシップを体
験する前の気持ちについ
て
① やってみたいと思つた
175人 68%
② やりたくなかつた
31人 12%

③ どちらとも思わなかつ
た
53人 20%
2 インターンシップを終
えた後の気持ちについて
① 満足している
240人 94%
② 満足していない
3人 1%
③ どちらともいえない
12人 5%

このように、体験する前
「やってみたい」という生
徒が、68%であつたが、終
えたときには、「満足した」
が94%となりました。この
大幅な増加は、インターン
シップが生徒に大きな刺激
になったと考えています。
以下の感想からその生徒の
変容が見取れます。

感想(抜粋)
・大変たつたがとても充実
した。自分は頑張ればこ
こまでできるんだと思
つた。
・仕事や進路、これからの
目標についてもう一度考
えることができた。
・社会に出ることの厳しさ
と仕事の楽しさを学べ
てよかった。

将来の進路選択の参考に
なつたからよかった。
・インターンシップはとて
も良い社会への体験だと
思うので今後もインター
ンシップを続けてほしい。
・学校の先生、自分の両親
以外で社会人と接する機
会がなかつたからよかつ
た。

中学生のインターンシッ
プと違つて求めてくる内
容が厳しくそれに応えら
れるよう努力した。
このインターンシップを
通して様々なことに視野
を広げていくということが
大事だとわかつた。

社会の厳しさやマナー、
学校と社会の違いなど実
際に自分が社会人になつ
てから学ぶことを予習の
ような形で学ぶことがで

きた。
このように、進路に對し
て自信を持ったこと、意欲
的になったことが分かり、
インターンシップが生徒に
将来の自分を考える意欲を
しっかりと醸成したことが分
かりました。また、なによ
りも働くことに積極的にな
ったことが驚きでした。さ
らに、昨年度は希望者の参
加によってインターンシッ
プを行いました。その時
の感想では、「地元でこのよ
うに一生懸命頑張っている
企業があるとは思わなかつ
た」、「働いている人がか
っこいいと思った」、「地
元で働きたいと思った」、「
自分ば勉強しているつも
りになつていたが、働いて
いる人の専門用語が分から
ず、勉強不足と分かった」
などがありました。生徒は、
地元をよく知らないで、そ
れでいて、地元軽視の傾向
があるようです。これは私
たちが改善していかなくて
はなりません。また、企業
について大人と異なるイメ
ージを持っているように感
じました。これも今後の指
導に活かさなくてはいいな
いと考えております。

新津高等学校 平成27年度東蒲原大会
同窓会総会

期 日：平成27年6月21日(日)
総 会 11時~12時
懇親会 12時30分~15時30分
会 場：道の駅「阿賀の里」
新潟県東蒲原郡阿賀町石間4301番地
TEL0254-99-2121
会 費：6,000円 (各支部でまとめて受付へお願ひいたします)
申 込：同窓会事務局又は各支部へ
お問い合わせ：同窓会事務局 (高校内 田村) TEL0250-23-4272
(出来るだけ支部単位で取りまとめをお願いします)
平成27年5月末日まで厳守

Table with 4 columns: Name, Position, Age, and Branch. Lists members of the alumni association for the 27th year.

総会で役員変更がなされる場合があります。

各種大会成績報告

(平成26年度 新潟高校同窓会 激励一覽)

- ◎平成26年度北信越高等学校体育大会少林寺拳法大会(6月石川県)
 - 3年 菅原 美桜 県総体 女子単独演武6位
- ◎第53回北信越高等学校体育大会陸上競技大会(6月長野県)
 - 3年 梶澤 克海 県総体800m 4位
- ◎第44回北信越高等学校弓道大会(6月長野県)
 - 県総体 女子団体1位
 - 3年 長谷川寧々・伊藤 雛子・田村みどり・樋口 未佑
藤田 佳子・渡辺絵莉佳・田沢 希佐・野田真紀子
- ◎平成26年度全国高等学校総合体育大会弓道競技大会(8月東京都)
 - 県総体 女子団体1位
 - 3年 長谷川寧々・伊藤 雛子・田村みどり・樋口 未佑
藤田 佳子・渡辺絵莉佳・田沢 希佐・野田真紀子
- ◎平成26年度全国高等学校総合体育大会弓道競技大会(8月東京都)
 - 3年 長谷川 寧々 県総体 女子個人2位
- ◎第20回西関東吹奏楽コンクール(9月群馬県)
 - 県大会 金賞
 - 3年 金子 千尋・熊倉日菜子・蒲澤 南海・田村 碧依
遠山 桜子・相田 実穂・中静 佳奈・山崎 彩香
佐藤美乃里・赤澤 計真・斎藤 菜美・羽生 知世
 - 2年 清野 実齊・轡田 明穂・鈴木 賢悟・山崎 達生
佐藤 彩佳・五十嵐杏佳・熊倉 楓・田沢 真優
野口未菜美・小林 茜・田中 裕子・山田 彩乃
 - 1年 豊島さくら・南澤 夏琳・長谷川雪乃・間嶋 綾奈
浦澤 円・江花 美穂
- ◎平成26年度第30回北信越高等学校囲碁選手権大会(12月新潟市)
 - 1年 高橋 悠月 県大会個人戦 1位
 - 1年 栗森 達朗 県大会個人戦 2位
- ◎第4回北信越高等学校弓道新人大会(12月富山県)
 - 2年 高塚 凪彩 県予選会 個人女子5位
- ◎第42回北信越高等学校選抜卓球大会(1月福井県)
 - 1年 大野真梨紗 県予選会順位決定戦4位
- ◎第9回全国高等学校囲碁選抜大会(3月大阪府)
 - 1年 高橋 悠月 北信越大会 個人戦2位
- ◎第11回中日本高等学校弓道大会(3月岐阜県)
 - 県代表選考会 1位
 - 2年 伊藤 大智・土田祥太郎・永田 孝大・塚田 健作
樋口 和克
 - 1年 佐藤 嵩士・増山 可耆
- ◎第11回中日本高等学校弓道大会(3月岐阜県)
 - 県代表選考会 1位
 - 2年 高塚 凪彩・田中 紫乃・鶴巻 望・兒玉 紗恵
中山 愛理
 - 1年 長澤 怜奈・石井 李沙

母校だより

同窓会入会挨拶

平成二十六年 学年幹事

鷲津 友貴



この度、同窓会学年幹事を務めさせて頂いたことに感謝申し上げます。鷲津友貴です。

私は中学生の頃から本校への入学を目標に、勉強に励んでまいりました。そんな憧れの新潟高校に入学した時の喜びは、何ものにも代え難く、希望と誇りを胸に高校生活を過ごしてきました。四季折々に表情を変える乙女坂、その坂の先に立つ学び舎を行き来した日々は、あつという間に過ぎていきましたが、とても充実

した時間でした。勉強、部活動、学校行事、そして仲間と過ごしたかけがえのない三年間は、人生八十年とすれば、七〇万八〇〇時間のうちの、たった二万六二八〇時間、しかありません。しかし、一生から見たら「大したことはない」と思われるような短いこの時間でさえも、私にとってはこの先忘れることのできない貴重な時間となることと、思います。

私達は今、この伝統ある新潟高校を晴れて卒業し、一人一人が未来に向かって歩み始めます。これまで歩んで来たみちは、仲間、家族、先生、地域の方々を支えと、自らの



努力によってつくられたものです。この先にもどのような困難が待ち受けていたとしても、全力で乗り越えて進んでいきたいと思えます。また、仲間とは今後も互いに切磋琢磨し、自分自身を高めていきたいです。そして、同窓会員の一人として、幹事として、微力ながら一生懸命に努めていく所存です。

最後になりましたが、今日まで私達を支えてくださった全ての方々に感謝を申し上げます。また、まもなく創立百周年となる新潟高校の更なる発展を祈念し、入会の御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひ致します。

七クラス(二七九名)が卒業した今春の卒業生は、国立大学の合格延べ数が一〇三名と、本校の目標である一〇〇名を超える良い結果でした。国立大学の合格延べ数は、ここ十年の間、増加傾向にあり、三年前に初めて一〇〇名を超えた後、今春で三回目の一〇〇名を超えとなりました。合格先も、北海道大学をはじめ、横浜国立大学や奈良女子大学など全国に広がっており、学びたいことができる大学を全国を視野に入れて探している様子が見られます。

私立大学についても、早稲田大学や上智大学、東京理科大学などの難関大学をはじめ、MARC Hクラスの大学にも延べ数で二十名以上の合格を出すことができました。

進学状況

また、浪人する生徒も三十人と少なく、一割程度にとどまりました。模擬試験段階では、思うような判定が出なかった生徒も「最後まで諦めない」を合言葉に、試験直前までよく頑張った結果だと思えます。放課後の教室や、図書館、自習室などで完全下校時刻ぎりぎりまで勉強を頑張る生徒も多く見られました。

また、今年から数学と理科が新教育課程に変わり、受験にも大きな変化が見られました。特に「理数教育の充実」が謳われている理数では、センター試験の出題範囲が従来の約二倍になりました。本校でも、対策を立てて取り組んできましたが、その負担は想像以上のものがありました。

では、文系理系高・資格志向が続いており、ここ数年間、文系の学部への志願者は減少傾向に、理系の学部への志願者は増加傾向にあります。特に就職状況が良い看護系の人が高止まりしており、本校でも看護大学希望者の中には、看護専門学校との併願をする生徒が増えています。

今年度の三年生からは、全教科が新教育課程に変わります。積極的に情報を収集して受験指導に生かすのももちろん、低学年から確かな学力と個々の希望にそった進路選択を目指し、生徒を導いていきたいと思えます。

進路指導部長 石塚 正宏

本校卒業生の上級学校進学状況

年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
在席	319	316	315	318	314	312	279	316	315	275	279
(クラス数)	(8)	(8)	(8)	(8)	(8)	(8)	(7)	(8)	(8)	(7)	(7)
大学	国公立	66	62	79	89	89	68	66	98	79	98
	の合格数	66	62	81	94	97	72	75	113	89	103
短大	私立	121	133	143	138	138	147	143	137	147	120
	国公立	13	14	15	23	2	1	2	0	0	2
私立	16	13	10	8	21	9	6	14	9	12	
大学短大計	216	222	247	258	258	225	217	249	235	232	
進学率(%)	67.7	70.3	78.7	81.1	80.0	72.1	77.8	78.8	74.6	84.4	
専門学校	48	40	21	19	21	26	29	34	32	28	
合計	264	262	268	277	279	251	246	283	267	260	

就職状況

就職希望者	性別		計
	男	女	
決定者	2	1	3
決定者	2	1	3
決定者	0	0	0
決定者	2	1	3

<合格大学>

新潟大29 山形大9 上越教育大4 金沢大3 秋田大2
 埼玉大2 富山大2 北海道大1 弘前大1 福島大1
 電気通信大1 東京学芸大1 横浜国立大1
 長岡技術科学大1 信州大1 奈良女子大1 宮崎大1
 新潟県立大17 高崎経大7 秋田県立大4 前橋工科大2
 福井県立大2 釧路公立大1 青森公立大1 会津大1
 群馬県立女子大1 埼玉県立大1 首都大東京1
 横浜市立大1 新潟県立看護大1 山梨県立大1
 尾道市立大1

新潟医療福祉大40 新潟青陵大20 新潟薬大19 新潟国際情報大10 敬和学園大3 新潟経営大2 新潟工科大2 新潟リハビリ大2

専修大21 金沢工大21 日本大18 神奈川大18 大東文化大16 東洋大16 帝京大12 千葉工大10 駒澤大8 東京電機大7 神田外語大6 中央大6 獨協大5 亜細亜大5 拓殖大5 法政大5 武蔵野大5 明治大5 文教大4 東海大4 東京家政大3 関東学院大3 青山学院大2 国士舘大2 芝浦工大2 東京理大2 明治学院大2 立教大2 京都外大2 大妻女子大1 学習院大1 国学院大1 上智大1 成蹊大1 東京農大1 日本女子大1 日本体育大1 東京都市大1 早稲田大1

スナップ写真集



▲弓道部女子団体 インターハイ初出場



▲体育祭 総合優勝 黄軍



▲吹奏楽部 西関東吹奏楽コンクール2年連続出場

活躍する同窓生たち

高校時代の思い出

桂 佑誠



同窓会には会費だけ払い参加はしていませんでした。参加のきっかけは卒業五十年目に支部総会

で集まりたいと呼びかけたこと。十名の同期生が集まり楽しく歓談でま

途中で降りないで自転車置き場まで行こうとペダルを必死で漕いだのが懐かしいです。

『別れ去て再びは会はじされどまた時に思はむ君懐かしみ』

第十五回卒

昭和三十八年

高校時代の思い出は新学期スコップ持参での登校や関西日光への修学旅行等と色々ありますが、やはり何と云っても学校までのあの坂道でしょう。三年からは自転車を

使ったので、ガードを降り、橋からの長い坂を

の四年生の正月休みでしたが当時作った拙い短歌が残っています。

私は石川同窓会長の同級生です。新津高校を卒業して五十年近い年月が経過してしまいました。

しかし不思議な事に新津高校の校歌は今でも歌う事が出来ます。私は現在三条に住んでいて燕三条

のクラス対抗大会が期末試験が終わる毎にありましたが今はどうなのでしょう。又当時の学区内をほぼ一周する駅伝大会もありました。交通事情もあるのではと今でも出来ないと思いますが懐かしい思い出です。忘れられない出来事は高校二年の時

の新潟地震です。昼休み中でしたがブルーの水が

半分近く迄減ったりグラウンドのあちこちにヒビ割れが入ったのを見ています。当時の新津高校は木造でした。私の合図(咳払い)でクラスの男子が一斉に貧乏ゆすりをするんです。そうすると教室がガタガタと揺れて

余震と勘違いした先生が授業を中断します。そんなイタズラも懐しく思い出されます。昔話をするのは年を取った証拠といいますが今回これを書くに当たって当時を思い出し明日から又頑張っ行ってきたいと思えます。同窓生の皆様頑張りました。お元気で。

(三条市在住) 第十八回卒 昭和四十一年

高校時代の思い出

瀬倉 八男



私は健康と趣味を兼ねて、古希野球チーム(米百俵)のエースとして全国大会に出場しました。

又、青少年育成のため、新潟アルビレックスベイスボールクラブを長岡誘致に成功し活動しており

ただ、勉強以外のことに時間をたくさん使ったおかげで学んだことも多かったです。

ヒトの心は千差万別なので、その時々での適切な対応が求められます。高校時代、がむしやに勉強してたくさん暗記するというのが、仲間に楽しかった私は、仲間と楽しく遊ぶ事に知恵を使い、そこで創意工夫も学んだような気がしています。

今、仕事も私生活も充実した毎日過ごすことが出来ているのは、高校時代に一緒に遊んだ良き仲間のおかげですね。

今は「高校時代に勉強に時間を割かなくて良かった」

(五泉市在住) 第四十一回卒 平成元年

雑感(青春時代)

津野 正敏



突然の原稿依頼を受け大変苦慮致しました。

私は母校(新津高校)には入るべきで、入学したと思っておりました。何故かと言うと母親・叔母が高等女学校卒業・兄・姉・弟が新津高校卒業

で有り当たり前、通学は中心街を通って二十分秋葉の山の松を目指した毎日でした。

入学後、クラス担任に婆ちゃん(藤井)先生でした。嫌な予感が大当りしてしまいました。

卒業後は進学が就職かで迷いましたが、余裕の有る家になかったので取り合えず就職して考える事にしましたが、二年後に進学する事を、婆ちゃん先生に指導を仰ぎ決断して進学しました。

追伸 私は健康と趣味を兼ねて、古希野球チーム(米百俵)のエースとして全国大会に出場しました。

又、青少年育成のため、新潟アルビレックスベイスボールクラブを長岡誘致に成功し活動しており

ただ、勉強以外のことに時間をたくさん使ったおかげで学んだことも多かったです。

ヒトの心は千差万別なので、その時々での適切な対応が求められます。高校時代、がむしやに勉強してたくさん暗記するというのが、仲間に楽しかった私は、仲間と楽しく遊ぶ事に知恵を使い、そこで創意工夫も学んだような気がしています。

今、仕事も私生活も充実した毎日過ごすことが出来ているのは、高校時代に一緒に遊んだ良き仲間のおかげですね。

今は「高校時代に勉強に時間を割かなくて良かった」

(五泉市在住) 第四十一回卒 平成元年

けがの功名?

鈴木 紀夫



新津高校を卒業して十七年になります。

当時の思い出はいろいろありますが、とにかく何をしても楽しかったのを覚えています。

ただ、勉強以外のことに時間をたくさん使ったおかげで学んだことも多かったです。

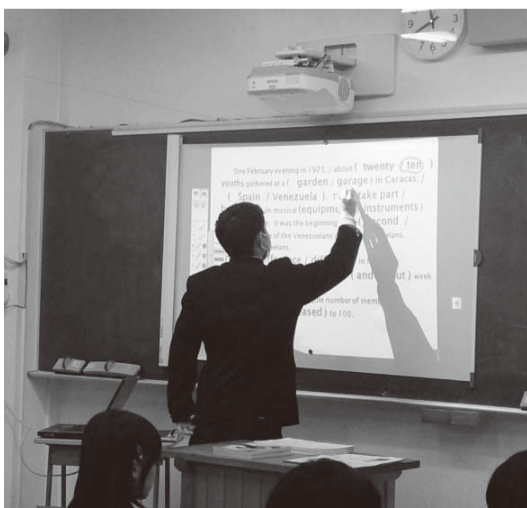
ヒトの心は千差万別なので、その時々での適切な対応が求められます。高校時代、がむしやに勉強してたくさん暗記するというのが、仲間に楽しかった私は、仲間と楽しく遊ぶ事に知恵を使い、そこで創意工夫も学んだような気がしています。

今、仕事も私生活も充実した毎日過ごすことが出来ているのは、高校時代に一緒に遊んだ良き仲間のおかげですね。

今は「高校時代に勉強に時間を割かなくて良かった」

(五泉市在住) 第四十一回卒 平成元年

電子黒板の設置



同窓生の寄付金をもとに、同窓会として母校に電子黒板を寄贈いたしました。

一年生から三年生まで、全ての普通教室二十一教室に設置をいたしました。県内でもここまでの台数を

持っている学校は数校のみです。秋には県内の多くの学校から視察が参りました。

同窓生による寄付

今年同窓の方々によるご寄付が相次いだ年でありました。次に簡単に紹介させていただきます。

①昭和三十九年三月卒業、高校第十六回商業科の皆さまから、岩室温泉にて同窓会を開催するに際し母校同窓会にご厚志をいただきました。

②昭和二十一年三月卒業、高女第二十二回中川(落合)節子様のご遺族様より、本会発展のためにご厚志をいただきました。

③本校女子バレー部のOBが活躍したバレークラブ「秋葉クラブ」が今般活動を休止するに当たり、残った活動費を新津高校女子バレー部の後輩のために使って欲しいとクラブを代表して、野本イミ様(高校第三回)、五十嵐節子様(高校第六回)がご厚志をお持ちくださいました。



今年同窓の方々によるご寄付が相次いだ年でありました。次に簡単に紹介させていただきます。

支部だより

東蒲原支部

支部長 坂井 政博

今年の冬は暖冬少雪と言われていたが、二月六日の初雪が消えないうまま、その後さらに大雪が降って根雪となって、四ヶ月近い長い冬が続きました。特に十二月はJR磐越西線の運休や遅れがたびたびあり、在校生をはじめ保護者の皆さんは大変な苦勞があったものと思います。

阿賀町は合併十年・津川開町四百年を迎え、「歴史に学び、未来を拓こう」をテーマにして、平成二十六年十月五日に記念式典が行われました。

昨年の支部活動としては、三年に一度の東蒲原支部総会と懇談会を七月十八日に、きりん山温泉「古澤屋」で開催しました。阿賀町に在住している支部会員の皆様は百二十名余りおりますが、新たな会員の出席者も増えて十六名が参加し、世代間をこえて交流を図ることができました。

平成二十三年度～二十五年年度の事業報告や会計決算報告、今後三年間の事業計画や会計予算、役員改選、等が審議され、現在の体制で支部活動をさらに活性化させ、平成二十七年同窓会総会を



第7回東蒲原支部総会 きりん山温泉 古澤屋

新潟支部

支部長 横山 道夫

皆様におかれましては、お元気で活躍のことと思います。

新潟支部は昭和五十一年に発足、三十九周年を迎えます。

支部活動を支えるため四十名を超える運営委員がおられ、このなかから支部長を含め、七人の支部役員を選び、二年に一回の支部総会と毎年の本部総会や本部分行事への対応をしております。

平成二十六年年度の活動
四月十九日定例運営委員会を新潟駅前で開催。二十五名の運営委員が出席されました。

二十五年年度決算及び活動報告、二十六年年度予算案に加え、本部役員会、同窓会報編集会議、秋陵会行事等についての活動方針を協議するとともに、二十六年年度の最大行事である同窓会総会新潟大会の対応について協議しました。

平成二十六年年度の支部総会は、同窓会新潟大会に併せ、総会に先立って午前十時から同会場にて開催し、任期満了に伴う役員について横山道夫支部長以下八名の役員が引き続き努めることとなり、皆様の御支援を賜りながら楽しく支部活動を展開してまいります。

新潟大会の開催内容に

東京支部

前支部長 阿部 紀之

東京支部の今後の主な計画と現在取り組んでいる主要な課題を報告し、お便りとさせていただきます。

東京支部は、平成二十七年五月二十四日(日)、東京都品川の品川プリンスホテルにおいて、第十三回総会をします。これにもとづき平成二十七年、二十八年度の事業がスタートします。東京支部は二年に一度総会を開催しております。

今年が開催年に当たり、今後二年間の事業計画、役員改選などが討議されます。

また、懇親会におけるイベントとして本校出身の朝川玲伎さんの三味線演奏を予定しています。

つきましては、別記事の通りですので一読願います。

その記事でも書きました通り、これからは、クラブOB会やクラス会等同好会単位の参加で、大勢の出席者から出て頂き行事を盛り上げていきたいと思っておりますので協力よろしくお願いいたします。

新発田支部

支部長 井上 雅

桜の見頃も過ぎ、新発田の広場も葉桜となりました。

支部活動報告としては、昨年度は私自身体調がすぐれなかったり、(弟)博(私の二年下で新発田高校卒業生)を五月に癌で失い、彼は東京から定年で私の近くに帰って来て四年目でした。支部の仕事を手伝ってもらおうと考えていた矢先の出来事で、私自身精神面や体調面からも支部活動を全く出来ず仕舞で終わった一年でした。そしてこの紙面をお借りして、同窓会本部

の会長さんはじめ役員の皆様には、新発田支部名簿の作成に当たり大変ご協力をいただきましたことを心よりお礼申し上げます。又、その名簿により、新発田市は近隣の豊浦町、紫雲寺町、加治川村と合併して現在人口が十万六〇〇人くらいの下越の中核都市で、旧溝口家十二代の城下町として栄えてきた町です。平成十六年に三階櫓(天守)及び辰巳櫓の二つの櫓を復元して、既存の旧二の丸櫓、表門と共に日本百名城、日本歴史公園百選

なおり、朝川さんは新潟市秋葉区の生まれで、早稲田大学を卒業後東京の大手医療機器メーカーに就職。宣伝部長にまで出世。その後、柳家紫文師匠に弟子入りし三味線の道に入り、その後独立。現在は東京で主として演奏家、新潟では三味線教室のお師匠さんとして活躍されている方です。

東京支部では、会員を増やすことを最重点課題として取り組んでいます。学年幹事を中心に会員が少ない卒業年度の未加入者に対して、電話などによる入会の誘い、総会の案内の送付などにより、会員の拡大に努めました。その結果、三十名近い方から新規の加入をいただきました。

ききました。

東京支部は会員制をとっており、会費月額1千円納入をお願いしております。会員の増加は会費の増額につながります。

東京支部の運営、活動は会に依存しており、会員の増加は喜ばしいことです。

会員同士の親睦、交流などに関して、東京支部では各種のサークル活動(ゴルフ、ハイキング)イベント参加(絵画展、音楽鑑賞)などを通じて進めています。また会員同士の情報交換、提供の場として機関紙:支部会報の拡充に向けて、これまでの隔年発行を毎年発行いたします。また編集機能も強化、編集委員会の常設化を決めております。これにより会員への情報提供、会員同士の情報交換が拡大するものと思われまます。

村松支部

支部長 安 中 守

早いもので会報発行の時期となりました。皆様の手が届く頃には、卒業生は新しい生活に慣れ始め、新入生は憧れの新津高生として歩み始めている事と思えます。それぞれの新しい門出に『幸多かれ』と応援しています。

突然ですが、皆さんのコミュニケーション・ツールはどんなものでしょうか。昔は電話・手紙が主流だったように思います。相手の声を直接聞き、文字を読んで(読めないような筆跡?)の方もいたでしょう。意思の伝達を急いで行っていました。それが急速に発達した現在は携

帯電話・スマホなどによるツールが主流になっていくようです。一瞬で多くの人達に連絡ができていく報が伝わる大変便利な世の中ではありますが、反面とても怖いような気がします。人間の造った便利な道具にそれを駆使している人間が使わされていくような気がしてなりません。携帯電話が普及し始めた頃はまだ電波状態が悪く「圏外」という所が多々ありましたが現在ではそれも皆無といってもいいでしょう。「電話が通じなくて連絡が取れなかった」なんて言い訳も通用しません。そんな現代人にはストレスも多いと思います。趣味や娯楽でうまく「息抜き」をしたいものです。

さて村松支部は昨年の総会に私を含め五名が参加させていただきました。新潟支部の方々には大変ご苦勞様でした。壇上で校歌熱唱ではとても感動しました。又、年に一度支部総会を行っていただきます。飲食を兼ねて親睦を深めています。短い時間ですが顔を合わせ、言葉を交わす、とても人間味があるような気がします。

『顔が見えるコミュニケーション』は最高です。これからも続けていきたいと思えます。

村松支部の皆さん、これからも活動にお手伝いをお願いします。

五泉支部

支部長 芹澤 一 夫

あじさい・すいれんの花咲く頃、街行く人々の半袖姿が目立つてまいりました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。

新津高校卒業、同窓生達は、女学校時代を含め数千人の多くの人達が五泉地域で活躍してまいりつて来ました。約四十年前頃、当時五泉地域の経済社会の中心で活躍していた方達が、新津高校同窓会として初めて、地区に支部を立ち上げる運動を起し新津高校同窓会「五泉支部」が結成されました。

その後各地区に支部が結成され、会員相互の親睦と母校の発展を図る運

営が活発になされて来ました。しかし二三年前に支部が残念ながら解散してしまっています。地域に活躍する若い人達で、もう一度支部を結成される事を同窓会一会員として願っています。

五泉支部では、今年からの目標といたしまして、先輩達と共に現在地域社会の一線で活躍していらっしゃる皆さんを中心に親睦と交流(異業種交流)を通して仲間作りを進める支部会にしたいと思えます。

過日二月二十五日その一貫とし五泉支部「新年懇親の集い」を開催しまし

た。それぞれの学生時代の想い出話や、現在の活躍・近況等々、楽しく有意義な一時を過ごしました。

地域の皆さん是非とも同窓生にお声掛けをし、仲間入りをお願いします。

問い合わせ先
支部長 芹澤 一 夫
副支部長 宇田 勝 久
副支部長 木村 道 雄

平成二十六年
新 潟 大 会
同窓会総会
新潟支部長 横山道夫

六月十五日(日)新潟駅前東映ホテルにて新潟支部主催で開催されました。

新潟大会は、これまで万代橋脇の新潟グランドホテルで行っていましたが、今回は会場規模などで多少問題があるものなど到達性が良いことから選定いたしました。ご出席の皆様のご意見をいただきたいと思います。

出席者は百十一名で、前回の新潟大会より約十名の出席減となりました。新潟支部の若手の出席見合わせがあったため、本部をはじめ東京、五泉村松、東蒲の各支部からは、例年並みのご参加をいただき大変ありがたございました。なかでも十五期の伊藤典雄氏のご協力で野球部OB十二名から出席頂きました。これから部活、クラス会等のレベルで参加要請していくことが大事でないかと思えます。

総会は石川会長のあいさつから始まり、会長からは同窓会活動の一層の活性化に加え、同窓会報の電子化案等のお話がありました。引き続き勉名誉会長(学校長)から、在校生の進学状況など新潟高校が県下の有力校として健闘していること、更に同窓会の寄付でデジタル黒板が全教室に整備され



ることにあつての謝辞がありました。

議事で平成二十五年度活動報告・決算報告平成二十六年活動計画・予算案審議の後、次回二十七年総会を東蒲支部主催で開催することを決議しました。

総会、懇親会を通して栗原博久元衆議院議員、森ゆう子元衆議院議員、高橋正元県議会議員、小林泰訓親師会長から祝辞をいただきました。

懇親会は、目黒正文元県議会議員の乾杯ご発声ではじまり、「福鵬会」の万代太鼓の威勢のよい撥さばきで一層盛り上がりました。会場のあちこちで握手や肩をたたきあつて騒々しい笑い声が聞こえ、さらにお楽しみ抽選会で番号が読み上げられると当選者の笑顔に出席者の拍手がわきあがりま

終わりに、二十七年年度開催の東蒲支部長長井政博氏の挨拶と山岸俊男同窓会副会長のご発声で万歳三唱して閉会しました。

平成26年度 一般会計決算書(案)

(自 平成26年4月1日 ~ 至 平成27年3月31日)

I 収入の部 △:減 (単位:円)

項目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1 繰越金	7,672,548	7,672,548	0	前年度繰越金
2 会費	840,000	837,000	△ 3,000	3,000×279人
3 発行協力費	2,500,000	1,803,248	△ 696,752	2007人
4 雑収入	0	365,887	365,887	預金利息・寄附(基本財産より)・預り金(校長より)
合計	11,012,548	10,678,683	△ 333,865	

II 支出の部

項目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1 基本財産	200,000	200,000	0	基本財産へ繰入れ
2 会議費	500,000	300,324	△ 199,676	総会、運営委員会等
3 事業費	3,900,000	3,526,622	△ 373,378	
会報発行費	3,600,000	3,302,972	△ 297,028	注1
生徒激励費	100,000	66,000	△ 34,000	5団体、8個人
記念品費	140,000	97,650	△ 42,350	入会記念品350円×279人
支部助成費	60,000	60,000	0	6支部へ
4 事務費	160,000	45,908	△ 114,092	
通信費	50,000	10,584	△ 39,416	切手、葉書
旅費	50,000	0	△ 50,000	
慶弔費	40,000	33,000	△ 7,000	餞別
事務費	10,000	2,324	△ 7,676	ラベル用紙、封筒、ノート
雑費	10,000	0	△ 10,000	
5 予備費	2,548	0	△ 2,548	
6 秋陵会費	100,000	100,000	0	秋陵会助成
7 その他	6,150,000	5,851,310	△ 298,690	アメリカ研修費補助、電子黒板、周辺機器
合計	11,012,548	10,024,164	△ 988,384	

III 次年度への繰越金

10,678,683 - 10,024,164 = 654,519円

注1 会報発送代金 2,618,136円(送料864円) リスト出力代 51,308円(送料864円)
 会報印刷費 631,800円 郵便手数料 0円
 合計 3,301,244円(送料1,728円)

平成26年度 基本財産決算書(案)

(自 平成26年4月1日 ~ 至 平成27年3月31日)

I 収入の部 △:減 (単位:円)

項目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1 繰越金	2,013,460	2,013,460	0	前年度より
2 会費	200,000	200,000	0	一般会計より
3 雑収入	0	484	484	預金利息(平成26年2月分を含む)
合計	2,213,460	2,213,944	484	

II 支出の部

項目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1 記念事業費	0	0	0	
2 雑費	0	200,000	200,000	一般会計補填
合計	0	200,000	200,000	

III 次年度への繰越金

2,213,944 - 200,000 = 2,013,944円

平成27年度 一般会計予算書(案)

(自 平成27年4月1日 ~ 至 平成28年3月31日)

I 収入の部 △:減 (単位:円)

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1 繰越金	654,519	7,672,548	△ 6,833,380	前年度繰越金
2 会費	816,000	840,000	△ 24,000	3,000円×272人
3 発行協力費	1,000,000	2,500,000	△ 1,500,000	
4 雑収入	0	0	0	預金利息他
合計	2,470,519	11,012,548	△ 8,357,380	

II 支出の部

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1 基本財産	200,000	200,000	0	基本財産へ繰入れ
2 会議費	400,000	500,000	△ 100,000	総会、運営委員会等
3 事業費	1,296,000	3,900,000	△ 2,604,000	
会報発行費	1,000,000	3,600,000	△ 2,600,000	
生徒激励費	100,000	100,000	0	
記念品費	136,000	140,000	△ 4,000	入会記念品(500円×272名)
支部助成費	60,000	60,000	0	6支部へ
4 事務費	160,000	160,000	0	
通信費	50,000	50,000	0	切手、葉書、送料
旅費	50,000	50,000	0	旅費
慶弔費	40,000	40,000	0	餞別、お見舞等
事務費	10,000	10,000	0	事務用品、封筒他
雑費	10,000	10,000	0	
5 予備費	164,519	2,548	346,620	
6 秋陵会費	100,000	100,000	0	秋陵会助成
7 その他	150,000	6,150,000	△ 6,000,000	アメリカ研修費補助
合計	2,470,519	11,012,548	△ 8,542,029	

平成27年度 基本財産予算書(案)

(自 平成27年4月1日 ~ 至 平成28年3月31日)

I 収入の部 △:減 (単位:円)

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1 繰越金	2,013,944	2,013,460	484	前年度より
2 会費	200,000	200,000	0	一般会計より
3 雑収入	0	0	0	預金利息
合計	2,213,944	2,213,460	484	

II 支出の部

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1 記念事業費	0	0	0	
2 雑費	0	0	0	
合計	0	0	0	

監 査 報 告 書

平成26年度新潟県立新潟高等学校同窓会の決算について、関係帳簿、証拠書類等を精査したところ、この会計処理はいずれも適正であることを認めます。

平成27年4月16日

会計監査 青野 寛一 

会計監査 坂爪 一郎 

協力金のお願い

新潟高等学校同窓会は、新入会員の入会金とこの会報の発行協力金で運営、活動しております。近年、学級数の減少(新入会員の減少)に加え、協力金も減少傾向にあり、同窓会の活動に影響が出てきそうな状況になってまいりました。事務活動の工夫節約では限界もあり、同窓会員のみなさまには、なにとぞ事情をご賢察いただき、同封の振込用紙で発行協力金をお納めいただきたくお願い申し上げます。今回は全員配布の年ですので、振込用紙にお知り合いの分はございませんが、お声を掛け合っ

新潟県立新潟高等学校同窓会事務局

同期の集い



昭和39年3月卒業(高校第16回)新津高校商業科同級会
(平成26年5月24日 新津高校にて)



昭和39年3月卒業(高校第16回)新津高校商業科同級会
(平成26年5月24日 岩室温泉 松葉屋にて)



昭和46年3月卒業(高校第23回)「秋桜会」

訃報

心からご冥福を
お祈り申し上げます

岩野 禎文先生(英語)

勤務期間 昭和41年4月～昭和62年3月
ご逝去 平成26年11月10日

佐藤 純一先生(理科)

勤務期間 昭和34年4月～昭和57年3月
ご逝去 平成27年1月3日

各支部連絡先

役職	氏名	卒業回数	郵便番号	住所	電話番号
新潟支部長	横山 道夫	高15	956-0002	新潟県新潟市秋葉区市之瀬148	0250-22-5792
五泉支部長	芹澤 一夫	高17	959-1865	新潟県五泉市本町1-7-3	0250-42-0004
新発田支部長	井上 雅	高19	957-0054	新潟県新発田市本町4-5-7	0254-24-4547
東蒲原支部長	坂井 政博	高18	959-4606	新潟県東蒲原郡阿賀町五十沢2070	0254-99-2021
村松支部長	安中 守	高23	959-1733	新潟県五泉市安出12-1	0250-58-8019
東京支部長	桂 佑誠	高15	190-0033	東京都立川市一番町2-31-21	042-531-1830
事務局	校内幹事		956-0832	新潟県新潟市秋葉区秋葉1-19-1 新津高校内	0250-22-1920(代)

連絡先

〒956-0832
新潟県新潟市秋葉区秋葉一十九一
新潟県立新津高等学校同窓会事務局
TEL 0250-222-1192
FAX 0250-224-6340
http://www.niitsu-h.nein.ed.jp

同窓会の活動・運営は、新入会員の入会金と皆さまからいただく会報の「発行協力金」でまかなっております。なにとぞ事情をご賢察くださいまして、引き続き協力金をお納めくださいますようお願い申し上げます。また、お知らせの同窓生にもお話しください。さらに多くの方から会の発展にご協力いただけたら幸いです。ありがとうございます。本部では、三年後を目標にして「会報のホームページ化」を検討中です。平成二十七年発行に向けて同窓会では「同窓会名簿二十七年版」の編集を株式会社サトウに委託をし、作業を進めております。この件に関しましてのお問い合わせは、フリーダイヤル0120(255)350へお電話ください。引き続きご協力をいただきましたら幸いです。なお、母校は、ホームページを開設しております。新津高校の現在につきましては「会報」と併せてお知らせもご覧ください。(校内幹事)

事務局より

この度本号にご寄稿いただきました皆様には、ご多忙の中、ご執筆を賜り誠にありがとうございました。さて、一九九五年阪神淡路大震災、二〇〇四年中越地震、二〇一一年東日本大震災と日本列島を大地震が襲った。その度に科学技術をもって自然を制することができないことを思い知らされた。これからは自然との共生調和、折り合いこそが求められている。科学技術の目覚ましい発展があるものの自然を相手にした時に地震などは未解明な部分が多い。最先端技術を結集した原発でも事故発生四年になるが封印できず放射線を出し続けている。私が所属するグループでは東日本大震災後毎年東北各県へのバスツアーを実施して東北復興支援をしている。昨年は十一月塩釜泊の二日間の旅でした。名取市関上地区の復興計画を視察後、漁港近くの小山にある神社に参拝、津波は社屋の上を二Mも越えて襲ったこと。その麓で東北復興支援販売店があり、買い物で支援しようと思ったところ、上越市出身の方がお嫁に来て被災し主人と命だけは助かったとのこと。皆で出来るだけ多くの買い物をして宿へ向かった。翌日は開通間もない国道六号を南へ向かった。沿線の家々はすべてバリケードが張られ心痛む光景である。この状態がいつまで続くのかと思うと一層心が締め付けられる。放射能の除染作業が続けられているが、実は大変な状況がいまだに続いている。これらを知ると自分が出る範囲で支援をと思うのである。(編集長 山岸俊男)

編集後記